

達成度(評価)	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

学校名	伊万里市立山代中学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上…ICTの活用や対話活動を積極的に授業に取り入れ、意欲喚起や学習内容のわかりやすさ等においては生徒たちに好評だった。資料や根拠に基づく説明や論理的に考えることに課題が見られる。 ・心の教育…生命尊重、いじめ防止、思いやりや豊かな心の育成について継続的に取り組むか、一定の成果を得た。生徒の自己有用感・自己肯定感の醸成、人間関係調整力の育成、保護者への啓発等の課題がある。 ・健康・体づくり…コロナ禍で可能な限りの活動に取り組んだ。スマホ等の利用ツール・ルールづくりを含めた生活学習、食事の大切さとしっかりと食べることの指導を継続していく必要がある。 ・特別支援教育の推進…支援部会を定期的に開催し、全職員での共通理解を行った。個別の特性に応じた支援のあり方を確認し、引き続き共通実践を行っていく。 	
2 学校教育目標	心豊かでたくましく、志を持つ生徒の育成 ～自己肯定感・自己有用感の醸成「させて、褒めて、認める」～	
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力」…話し合い活動の充実、発信力の育成 「豊かな心の育成」…道徳教育の充実、人間関係調整力の育成 「健やかな体の育成」…感染症対策、食育の推進 「生徒指導の充実」…生徒の出番をつくる開発的生徒指導、いじめの早期発見・早期解決 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域とともにある学校づくりの推進」…情報発信 「家庭の教育力の向上」…PTA活動の促進・共通実践、家庭学習・スマホ利用のルールづくりの啓発 「小中連携の推進」…相互理解と交流、児童生徒の人間関係調整力の育成 「働き方改革の推進」…定時退勤日の徹底、組織的な業務遂行の推進、会議の精選

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	評価項目	取組内容		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や発言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上。 ○対話により、考えが深まったと感じる生徒80%以上。	・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着に向けた指導及び共通実践を行う。 ・対話学習や協働活動による課題解決学習を取り入れた授業づくりを行う。	A	・年間を通じて、小テストや単元テストを行い、生徒の知識・技能の定着を図るとともにTTや少人数授業の実践の成果として少しずつではあるが、県調査等で学力の向上が見られる。 ・「話し合い活動」や「学び合い」などの対話学習を積極的に授業に取り入れた結果、アンケート結果から「考えが深まった」と感じている生徒が9割を超えていた。	A	・保護者アンケートで「授業のわかりやすさ」や「ICT機器の活用」についての質問に対して「わからない」と回答した保護者が28%・41%。学校の中のこととはよくわからないのが現実ではないか。 ・タイピングの技術などは個人差があるだろうが、慣れていくしかない。
	○家庭学習の習慣化を図る取組と啓発	○1日の家庭学習時間が1年70分、2年80分、3年90分以上の生徒の割合が80%以上。	・SAの時間で計画した家庭学習に取り組みせ、家庭学習の習慣化と課題提出の徹底を図る。	B	・SAの時間を確保し、自主学習につなげて家庭学習の内容が充実するようになった。家庭学習に取り組んでいる生徒は79%だが、設定時間以上取組んでいる生徒は64%だった。家庭への啓発と生徒の学力や生活環境に応じた指導をしていく必要がある。	B	・基礎学力はぜひ身につけてほしい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「考える道徳」「議論する道徳」の授業づくりと輪番での授業実践。 ○相手の立場を考えて自分の考えを適切に伝えることができる生徒70%以上。	・各種集会や朝の班活動での交流活動を通して自他の理解の促進を図る。 ・感想のシェアリング、いまりっしぐさの唱和等を行う。	A	・生徒アンケートでは、道徳の授業で自分のことに置き換えて考えることができた(81%)、自分の考えを適切に伝えられた(81%)、自分の意見を聞いてもらえる(54%→63%)であった。班活動や感想のシェアリングを通して伝え力をつけてきている。生徒同士のつながりを構築するためにも班活動での交流は継続していく。	B	・コミュニケーション能力の育成が必要。社会では横のつながり、縦のつながりともに大事。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答する教員100%。 ○学校生活満足度の肯定的回答率80%以上。	・毎月の生徒指導アンケート(心のアンケート)教育相談の結果について学年職員で共通理解を図り、「いじめ」に対する取り組みを全職員で徹底して行う。	A	・いじめ防止に組織的に対応した。いじめに対する密着指導ができたと回答した職員は100%であった。学校生活は充実していると肯定的に回答した生徒は81%であった。生活アンケートや教育相談の結果を学年や学校全体で情報共有し、生徒の変化を見逃さずに全職員で関わる姿勢を継続していく。	A	
●健康・体づくり	○命の教育の推進	○「学校ではいのちや生き方について考える機会がある」という項目で肯定的回答90%以上。	・外部講師による講話等で「命と生き方を考える週間」の取り組みの充実を図る。 ・長期休業前後に心の状態やその対処法、命の尊さについて考える機会をもつ。	B	・11月に「生と性と死」の講演会や1月の集会などを行い、「いのちや生き方について考える機会がある」と答えた生徒は74.7%(中間)から83.1%に向上した。一方、保護者の認識は79%であり、「生」「命」について機会あるごとに生徒・保護者ともに発信していく。	B	・「いのちと生き方を考える週間」については、保護者も周知してほしい。
	●望ましい生活習慣の形成	○早寝(23時まで就寝)の達成率が70%以上。 ○スマートフォンやタブレット端末の1日の利用時間2時間未満が70%以上。	・生活状況調査、食に関する調査の結果を各種たよりに掲載し、啓発を図る。 ・生徒会で、スマホやタブレット端末の利用時間等の問題点を取り上げ、改善策について考える取り組みを行う。	B	・生徒の「23時まで就寝を意識した」の回答が62.9%、「スマホ等の1日の利用時間が2時間未満」の達成率が68.5%であった。保護者の「スマホ等の利用についてのルール」については35%が決めていると回答した。今後、生徒会の取り組みや問題点を各種たよりに掲載するなど、意識を高める働きかけを行う。	B	・世の中が便利になり娯楽性の高いゲームや動画等に夢中になっている。小さな子供でもスマホの画面を扱って育っているという時代の流れでもある。 ・中学時代は部活動や塾中することによって取り組んでほしい。部活動の地域移行も模索していければいい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒85%以上。 ○朝食喫食率90%以上。 ○食への感謝をもち、給食を通じた健やかな体づくりの推進。 ○食事のマナーや給食をしっかりと食べる習慣を身につけさせる。	・食育講話等を通して食の重要性についての意識を高め、実践につなげる。 ・学校生活全般において食事、特に朝食の必要性を理解させる。 ・食事のマナーや給食をしっかりと食べる習慣を身につけさせる。	A	・栄養教諭による食育講話、学活や家庭科での学習を通じて「健康に食事は大切である」と考える生徒は97.8%であり、好き嫌いがある生徒も意識が高まり、給食の残量はほとんどない。 ・朝食の喫食率については87.6%と中間報告時よりも1.4Pt下がったが目標の80%は達成した。	B	
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守。	・OJTによる人材育成に努める。 ・組織的な業務運営による仕事量の均衡化を図る。 ・定時退勤・部活休業日の徹底を図る。	A	・全職員が互いに協力しながら業務に臨むことができ、組織で動く意識が高まっている。 ・時期的な背景もあるが、定時退勤日の実践や計画的な業務の実施、役割分担の明確化によりほとんどの職員の時間外在校時間が短くなった。	A	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	評価項目	重点取組内容		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や発言
○特別支援教育の推進	○職員研修と生徒理解 ○具体的な手立てと体制づくり	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答する教職員の割合が80%以上。 ○生徒理解に基づく合理的配慮ができたと回答する教職員100%。	・職員研修会、支援会議などを適宜実施し、共通理解を図る。 ・特別支援学級担任の部会を定期的に開催する。	A	・3回の巡回相談で、個別支援の在り方について助言を得、共通理解をしながら対応にあたった。 ・SCや関係機関との連携を図り、個に応じた対応について模索し、生徒が自分らしく過ごせる環境づくりに努めた。	A	
◎自己肯定感の醸成と自己実現に向かう態度の育成	◎キャリア教育・進路学習の充実 ◎生徒自習力を高める学級経営 ◎開発的生徒指導の実践	○目標をもって意欲的、主体的に諸活動に取り組んだと回答する生徒80%以上。 ○学級の中で自分の出番や役割があると回答する生徒80%以上。	・話し合い活動の充実により、課題解決や企画運営の力を養った。 ・体験活動、生徒会活動、各種実行委員会等を推進する。	B	・生徒の主体的な活動場面が増え、話し合い活動では、一定の成果が見られる。 ・生徒たちの活発な活動を推進していくために、さらに生活場面、生徒会および行事においても意図的・計画的に自治活動の場面を設定する。	A	・自己肯定感の指標はどのようにしてみているのか。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力が徐々に定着し、テストの平均で市や県の平均値に迫る(超える)ようになってきた。主体的な学びと家庭学習の定着を図り、一人1台PCを効果的に活用し、継続して授業改善・学力向上に取り組んでいきたい。 ・グループ活動による一定の成果は見られるが、さらに充実した活動にするために学校生活のいろいろな場面において、話し合いや交流活動を取り入れ、生徒たちの力で課題解決や企画運営に取り組ませ、コミュニケーション力、自己決定力、表現力、自治力等の育成と自己有用感の醸成に努める。 ・生徒指導、特別支援、教育相談において研修と情報共有を行い、個に応じた適切な支援を行うように努めるとともに、保護者との連携を図り、早期対応・早期解決に努める。ルールの意義を考えさせ、タイミングを逃さず指導する。 ・CSの取組の一環として、小中連携や地域との連携を図り総合的に子どもの成長を支え、見守る体制をつくるようにする。学習と生活、学校と地域社会の関連を図りながら教育活動に取り組む。
------------------------	--